

東洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	3	前期 火曜日 2講時	
東洋史概論	中国史概説Ⅱ	2	大野 晃嗣	4	後期 火曜日 2講時	
東洋史基礎講読	『廿二史劄記』講読(1)	2	大野 晃嗣	3	前期 火曜日 5講時	
東洋史基礎講読	『廿二史劄記』講読(2)	2	大野 晃嗣	4	後期 火曜日 5講時	
東洋史各論	六朝政治史の諸問題	2	川合 安	5	前期 金曜日 4講時	
東洋史各論	六朝貴族制の諸問題	2	川合 安	6	後期 金曜日 4講時	
東洋史各論	清朝の外藩モンゴル統治の諸問題	2	岡 洋樹	5	前期 水曜日 4講時	
東洋史各論	中国中世の喪葬と礼制	2	江川 式部	集中(6)	集中講義	
東洋史各論	清末近現代中国の統治構造研究	2	水盛 涼一	集中(6)	集中講義	
東洋史演習	明清史料研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	前期 水曜日 5講時	
東洋史演習	明清史料研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	後期 水曜日 5講時	

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB32202, 科目ナンバリング：LHM-HIS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国史概説 I

2. Course Title (授業題目)：Outline History of China

3. 授業の目的と概要：中国史に関するいくつかのトピックを取り上げ、時代背景を確認しながら解説を加える。
具体的には

- ・ 科挙とは何か
- ・ 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響
- ・ 科挙制度の概要（童子試、郷試、会試、殿試）
- ・ 科挙と魯迅の作品について

以上の内容について、それぞれ2，3回ずつ話す予定である。なお1回目はガイダンスである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will cover some topics on Chinese history and study that background.

- ・ What is the Civil Examination in s in Late Imperial Chinas in Late Imperial China?
- ・ The influence that the Civil Examination gave to European society
- ・ Outline of the Civil Examination system
- ・ About the Civil Examination system and the works of Lu Xun

I plan to talk about the above contents two or three times each. The first time is guidance.

5. 学修の到達目標：中国史における重要なトピックについて知識を深めると同時に、それらの内容について自分の意見を持つことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Deepening your knowledge of important topics in Chinese history, and you can have your own opinion about their content.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はオンラインで行う。

1. ガイダンス
2. 科挙とは何か（1）
3. 科挙とは何か（2）
4. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響（1）
5. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響（2）
6. 科挙制度の概要—童子試（1）
7. 科挙制度の概要—童子試（2）
8. 科挙制度の概要—郷試（1）
9. 科挙制度の概要—郷試（2）
10. 科挙制度の概要—会試、殿試（1）
11. 科挙制度の概要—会試、殿試（2）
12. 科挙と魯迅の作品について（1）
13. 科挙と魯迅の作品について（2）
14. 科挙と魯迅の作品について（3）
15. 科挙制度の意義とまとめ

8. 成績評価方法：

出席点（30%）とレポート（70%）。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：原典（漢文）を使用しながら授業を進めるので、予習と復習が必要。また指示した書籍の読了を求めることがある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB42201, 科目ナンバリング：LHM-HIS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国史概説Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Outline History of China

3. 授業の目的と概要：中国史に関するいくつかのトピックを取り上げ、時代背景を確認しながら解説を加える。
具体的には

- ・中国史と歴史書
- ・正史と紀伝体
- ・『史記』と司馬遷
- ・正史から小説へ

以上の内容について、それぞれ2, 3回ずつ話す予定である。なお1回目はガイダンスである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will cover some topics on Chinese history and study that background.

- ・ Chinese history and history book
- ・ The official histories of China and annals-biographies form
- ・ "Shiji" and Sima qian
- ・ From The official histories of China to a literary work

I plan to talk about the above contents two or three times each. The first time is guidance.

5. 学修の到達目標：中国史における重要なトピックについて知識を深めると同時に、それらの内容について自分の意見を持つことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Deepening your knowledge of important topics in Chinese history, you can have your own opinion about their content.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はオンラインで行う。

1. ガイダンス
2. 中国史と歴史書 (1)
3. 中国史と歴史書 (2)
4. 中国史と歴史書 (3)
5. 正史と紀伝体 (1)
6. 正史と紀伝体 (2)
7. 正史と紀伝体 (3)
8. 『史記』と司馬遷 (1)
9. 『史記』と司馬遷 (2)
10. 『史記』と司馬遷 (3)
11. 正史から小説へ (1)
12. 正史から小説へ (2)
13. 正史から小説へ (3)
14. 正史から小説へ (4)
15. 中国史における歴史書編纂の意義とまとめ

8. 成績評価方法：

出席点 (30%) とレポート (70%)。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：原典 (漢文) を使用しながら授業を進めるので、予習と復習が必要。また指示した書籍の読了を求めることがある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB32503, 科目ナンバリング：LHM-HIS209J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『廿二史劄記』講読（1）

2. Course Title (授業題目)：ERSHIERSHIZHAJI (Reading) (1)

3. 授業の目的と概要：中国史研究（特に前近代）には、中国古典文（漢文）で書かれた史料（歴史資料）の読解が必須である。そのための基礎訓練の材料として、清趙翼『廿二史劄記』明史の記述をテキストとする。受講者は、このテキストを読解し、訓読と現代日本語訳を作成する作業を体験する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the basic skills needed to read the Chinese classics as historical materials by reading “Ershiershizhaji”.

5. 学修の到達目標：中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the basic skills to read the Chinese classics as historical materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は対面で行う。まず最初の1～2回目に『廿二史劄記』を読むために必要な事項を説明する。そして、3回目以降は、演習形式で行い、テキストを少しずつ区切って読み進める。

- 1、ガイダンス：授業の進め方について
- 2、『廿二史劄記』について/漢文の語法について
- 3、『廿二史劄記』明史講読（1）「明史」
- 4、『廿二史劄記』明史講読（2）「明史」
- 5、『廿二史劄記』明史講読（3）「明史」
- 6、『廿二史劄記』明史講読（4）「明史」
- 7、『廿二史劄記』明史講読（5）「明史立伝多存大体」
- 8、『廿二史劄記』明史講読（6）「明史立伝多存大体」
- 9、『廿二史劄記』明史講読（7）「明史立伝多存大体」
- 10、『廿二史劄記』明史講読（8）「明史立伝多存大体」
- 11、『廿二史劄記』明史講読（9）「大礼之議」
- 12、『廿二史劄記』明史講読（10）「大礼之議」
- 13、『廿二史劄記』明史講読（11）「大礼之議」
- 14、『廿二史劄記』明史講読（12）「大礼之議」
- 15、授業の総括

8. 成績評価方法：

2回目の授業以降、毎回課す課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

配布した資料を用いて授業を進める。

10. 授業時間外学習：訓読・日本語訳の作成を毎回行って授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB42504, 科目ナンバリング：LHM-HIS209J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『廿二史劄記』講読 (2)

2. Course Title (授業題目)：ERSHIERSHIZHAJI (Reading) (2)

3. 授業の目的と概要：『廿二史劄記』の読解を継続し、中国古典文(漢文)で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。2 回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を作成し、あわせて、関連史料や官職、制度等の調査結果についてもまとめて、課題として提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the basic skills needed to read the Chinese classics as historical materials by reading “Ershiershizhaji”.

5. 学修の到達目標：学部演習において最低限必要な、史料読解のための基礎学力を身につけ、手持ちの漢和辞典のみならず、東洋史研究室所蔵の大型辞書や関連の基本的史料などを自由自在に使いこなせるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the basic skills to read the Chinese classics as historical materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は対面で行う。まず最初の 1～2 回目に『廿二史劄記』を読むために必要な事項を説明する。そして、3 回目以降は、演習形式で行い、テキストを少しずつ区切って読み進める。

- 1、ガイダンス：授業の進め方について
- 2、明代の官職、制度等の調べ方について
- 3、『廿二史劄記』明史講読 (1)「李福達之獄」
- 4、『廿二史劄記』明史講読 (2)「李福達之獄」
- 5、『廿二史劄記』明史講読 (3)「李福達之獄」
- 6、『廿二史劄記』明史講読 (4)「李福達之獄」
- 7、『廿二史劄記』明史講読 (5)「袁崇煥之死」
- 8、『廿二史劄記』明史講読 (6)「袁崇煥之死」
- 9、『廿二史劄記』明史講読 (7)「袁崇煥之死」
- 10、『廿二史劄記』明史講読 (8)「袁崇煥之死」
- 11、『廿二史劄記』明史講読 (9)「周延儒之入奸臣伝」
- 12、『廿二史劄記』明史講読 (10)「周延儒之入奸臣伝」
- 13、『廿二史劄記』明史講読 (11)「周延儒之入奸臣伝」
- 14、『廿二史劄記』明史講読 (12)「周延儒之入奸臣伝」
- 15、授業の総括

8. 成績評価方法：

2 回目の授業以降、毎回課す課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

配布した資料を用いて授業を進める。

10. 授業時間外学習：訓読・日本語訳及び注の作成を毎回行って授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB55401, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：六朝政治史の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues of the Political History of the Six Dynasties Time

3. 授業の目的と概要：中国の六朝時代（魏晉南北朝時代、220～589 年）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代の政治史の推移を分析し、当時を生きた人々の政治的社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。中国史における六朝時代の特質について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course covers the political history of the Six Dynasties time (220-589) to help students understand the characteristics of the Six Dynasties time in Chinese history.

5. 学修の到達目標：六朝時代の政治史の流れとその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students discuss the characteristics of the political history of the Six Dynasties time.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で行い、第 2 回目以降、毎回課題を課す。

- 1、序論（六朝時代の概略）
- 2、後漢末の政治
- 3、三国・魏の政治
- 4、西晋の政治
- 5、東晋の政治
- 6、東晋末の政治
- 7、劉宋の政治
- 8、南齊の政治
- 9、梁の政治
- 10、陳の政治
- 11、北魏前期の政治
- 12、北魏後期の政治
- 13、東魏・北齊の政治
- 14、西魏・北周の政治
- 15、総括

8. 成績評価方法：

第 2 回目以降毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

各時間に資料を配布する。参考書は、川勝義雄『魏晉南北朝』（講談社「講談社学術文庫」、2003 年）など。他は講義の中で紹介する。

10. 授業時間外学習：資料を精読して課題を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB65401, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：六朝貴族制の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues of the Aristocratic System of the Six Dynasties Time

3. 授業の目的と概要：中国の六朝時代（魏晉南北朝時代、220～589）は、貴族が政治・社会を主導する体制—貴族制の時代として知られる。講義では、この時代の貴族制について分析し、その具体相を浮かび上がらせるを試みる。中国史における六朝時代の特質について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course covers the aristocratic system of the Six Dynasties time (220-589) to help students understand the characteristics of the Six Dynasties time in Chinese history.

5. 学修の到達目標：六朝貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students discuss the characteristics of the aristocratic system of the Six Dynasties time.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で行い、第 2 回目以降、毎回課題を課す。

- 1、序論（貴族、貴族制とは）
- 2、漢代の貴族
- 3、九品官人法と貴族制の形成
- 4、西晋の貴族制
- 5、東晋の貴族制
- 6、東晋貴族制の動揺
- 7、宋・齊時代の貴族制
- 8、宋・齊時代の名門貴族
- 9、宋・齊時代の新興貴族
- 10、北魏・孝文帝の貴族制導入
- 11、梁・武帝の貴族制改革
- 12、陳代の新傾向
- 13、東魏・北齊の貴族制
- 14、西魏・北周の新傾向
- 15、総括

8. 成績評価方法：

：第 2 回目以降毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

各時間に資料を配布する。参考書は、講義時間に紹介する。

10. 授業時間外学習：資料を精読して課題を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：岡 洋樹

コード：LB53401, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：清朝の外藩モンゴル統治の諸問題

2. Course Title (授業題目) : The Qing's rule over Mongolia

3. 授業の目的と概要：清朝（大清国）は、中国最後の王朝であるが、最盛期におけるその支配下にはユーラシア内陸部の広大な空間が含まれた。とくにモンゴル高原から新疆北部に分布するモンゴル系遊牧民諸集団は、清朝の拡大過程で重要な役割を果たした。そもそも清朝自体が満蒙の王族と漢人諸侯による太宗ホンタイジ推戴を画期として成立したのであり、モンゴルはその国家構造の不可分の一部を構成した。1644 年の入関により中国本土支配の開始により、モンゴルは支配エリートたる八旗と内地諸省とともに新の統治カテゴリーの一つとしての「外藩」を構成した。「外藩」体制は、清代を通じて維持され、その最終的な消滅は、1920～30 年代のことである。それゆえ、清の国家構造の特徴である「外藩」は、近代の東北アジア史の「焦点」の一つであった。本講義では、近代をも視野に含めつつ、清朝統治における外藩部分の制度的・社会的特徴を概観しつつ、アジアにおける前近代帝国統治の意味を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The territory of the Qing dynasty, the last of Chinese dynasties, covered broad space of Inner Eurasian region where various nomadic peoples lived. Especially the Mongolian nomads played important role in the Qing's advancement. The Qing itself was established by Manchu-Mongolian noble princes and Chinese warlords when they enthroned Taicong Huntaiji in 1636 and the former Mongolian polities were comprised in its ruling structure. As the result of the Qing's advancement into China proper in 1644, Mongolian princes were incorporated in the administrative structure called "Wai fan". The Wai fan regime was maintained until the collapse of the Qing's rule in 1912 and finally disappeared in 1920-30s. Accordingly the collapse of Wai fan regime became a pivot of political turbulence of Modern Northeast Asia. In this lecture The historical context of the Qing's rule over Mongolia is discussed from the viewpoints of administrative system and social structure and furthermore the general nature of the rule of multicultural pre-modern empire.

5. 学修の到達目標：清朝の国家統治が、その内陸アジア部分においていかなる制度的特徴と、歴史的な文脈を有するのかを学ぶことで、東北アジアの文化的多様性の歴史的淵源を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students are expected to understand about the historical origin of the cultural diversity of modern Northeast Asia through investigating the Qing's ruling structure and its historical context of Inner Asian history.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

講義では、以下の論題について考察を行う。

1. 清朝のモンゴル統治カテゴリーとして「外藩」

清朝の国家構造は、皇帝とマンジュ諸王が率いる支配エリートとしての八旗、モンゴル諸王属下としての外藩、明の領域を継承した内地直省の三つの部分から構成されていた。ここでは、清の外藩の統治構造を制度的に概観する。

2. 外藩統治成立の歴史的経緯

清の統治カテゴリーとしての外藩は、17 世紀から 18 世紀にかけて漸次形成されたが、その統治要件の多くが北元期のモンゴルに由来するものであった。ここでは、清初から 17 世紀末までの満蒙関係を概観しつつ、北元期のモンゴル社会における統治のあり方が清の外藩へと取り込まれていく過程を検討する。

3. 清代モンゴルの社会構造

清の統治下におけるモンゴルの社会構造は、1950 年代末からモンゴル人民共和国の研究者によって、文書史料（档案）を用いて研究されてきた。その後モンゴル国や中国内モンゴルに残る膨大な文書史料が刊行され、当時モンゴルの社会構造が解明されつつある。ここでは、最新の研究成果を用いて、モンゴル遊牧民社会の特徴を論じる。

4. 「封禁政策」論の問題

清のモンゴル統治の特徴としてよく言及されるのが「封禁」と呼ばれる政策である。これは、内地直省と外藩の相互の人の往来を厳しく制限し、漢人とモンゴル人の分離統治をはかったとするものである。ここでは、近年の文書史料による研究成果を踏まえて、封禁政策の現実性について議論する。

5. 清朝のモンゴル統治の歴史的な文脈

清のモンゴル統治の歴史的な性格については、これまで様々な議論がなされてきた。ここでは、清の支配期のモンゴルを、モンゴル史の文脈に位置付けるとともに、清朝国家の歴史的な性格にも言及したい。

8. 成績評価方法：

出席と学期末に課するレポートにより評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考文献は講義の中で適宜指示する。

1 0. 授業時間外学習：出席者は、毎回講師が指示する文献を読むことによって、講義に対する理解を深めること。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：集中(6) 単位数：2

担当教員：江川 式部

コード：LB98824, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国中世の喪葬と礼制
2. Course Title (授業題目)：Mourning and Funeral rites of Medieval China
3. 授業の目的と概要：この授業では、中国の喪葬と礼制を学ぶことにより、人々の死生観や時代の特徴を歴史的に理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to help students learn Chinese funeral and ritual systems, and get to historically understand the characteristics of people's views on life and death.
5. 学修の到達目標：・中国における喪葬儀礼の歴史的展開について理解する。
・喪葬儀礼に用いられた各種の文物について理解する。
・喪葬儀礼の文化的背景について理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・This course is designed to help students understand the historical development of mourning and funeral ceremonies in the historical world of China.
・Students learn about various cultural objects used in mourning and funeral ceremonies.
・Students learn about the cultural background of mourning and funeral ceremonies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は講義方式で行う。
 1. 導論①
 2. 導論②
 3. 先秦時代の喪葬と礼制
 4. 秦・漢代の喪葬と礼制
 5. 魏晋時代の喪葬と礼制
 6. 南北朝時代の喪葬と礼制
 7. 隋代の喪葬と礼制
 8. 唐代の喪葬と礼制
 9. 墓壁画と造像碑・塔銘
 10. 墓誌と墓碑①
 11. 墓誌と墓碑②
 12. 上墓儀礼
 13. 哀冊と諡冊
 14. 喪葬と法制
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
小テスト(20%)、期末レポート(60%)、平常点(20%)
9. 教科書および参考書：
・教科書は使用しません。
・授業時に資料を配布します。
・参考書は授業時に紹介いたします。
10. 授業時間外学習：予習・復習を行ってください。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：集中(6) 単位数：2

担当教員：水盛 涼一

コード：LB98823, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：清末近現代中国の統治構造研究

2. Course Title (授業題目)：Historical Study of the Governing Structure in Late Qing, Modern and Contemporary China

3. 授業の目的と概要：本講義では、清朝（大清帝国）の後期から近代そして現代にいたる中国の統治構造について考察する。清朝は東アジアの諸王朝のなかでも特に広大な版図を得た。そして中華民国や中華人民共和国はこの清朝の領土をおよその基準として継承したため、民族構成や統治機構など各分野にその影響が残った。この清朝の姿について文教政策や官僚機構さらには徴税制度といった側面から概観し、加えて現代との比較を試み、近代中国の特徴を考察していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this lecture examine the governing structure of Chinese rule from the late Qing Dynasty (daicing gurun) to present-day. The Qing Dynasty was one of the most extensive of the East Asian dynasties, and the Republic of China and the People's Republic of China inherited its territory on an approximate basis, and its influence remains in various areas such as ethnic composition and governance structure. We will review the Qing Dynasty in terms of its educational policies, bureaucracy, and tax collection system, compare them with those of the present day, and observe Characteristics of Modern China.

5. 学修の到達目標：清朝の統治機構における制度的特徴と歴史的な脈を把握し、近代ひいては現代にいたる中国の行動原理の歴史的淵源を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand the institutional characteristics and historical context of the Qing dynasty's governing structure, and comprehend the historical origins of contemporary China's conduct.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は講義を中心に進め、適宜歴史資料を読解する。

- 01) 導論(1) 清代・近代・現代の概観
- 02) 導論(2) 近代が歴史研究の対象となったとき
- 03) 清朝の中央と地方の官僚社会(1)
- 04) 清朝の中央と地方の官僚社会(2)
- 05) 清朝の中央と地方の官僚社会(3)
- 06) 清朝の中央と地方の官僚社会(4)
- 07) 集団行動と盲流そして反乱(1)
- 08) 集団行動と盲流そして反乱(2)
- 09) 集団行動と盲流そして反乱(3)
- 10) 集団行動と盲流そして反乱(4)
- 11) 文教政策と言論空間(1)
- 12) 文教政策と言論空間(2)
- 13) 文教政策と言論空間(3)
- 14) 文教政策と言論空間(4)
- 15) 総合討論

8. 成績評価方法：

平常点(30%)、3回のミニツレポート(10%+10%+10%)、期末レポート(40%)

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

10. 授業時間外学習：受講者は講義で紹介する参考文献を次回講義までに通読しておくことが望ましい。

Students are required to read the reference books presented in the lectures before the next lecture.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB53502, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清史料研究 I

2. Course Title (授業題目) : Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：中国明清時代の漢文史料読解を通じて、読むための手続き（史料の探し方や辞書・索引の使い方等）を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course is designed to help students learn how to search for historical materials and how to use dictionaries / index through reading the Chinese historical documents of Ming Qing Period. Then students get basic knowledge on exploring various subjects about Chinese history.

5. 学修の到達目標：内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : In reading the text, students collect related historical materials by other contemporaries' writings and train to deepen understanding. Students perform a presentation in every class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方
2. 明清史料研究 I - (1)
3. 明清史料研究 I - (2)
4. 明清史料研究 I - (3)
5. 明清史料研究 I - (4)
6. 明清史料研究 I - (5)
7. 明清史料研究 I - (6)
8. 明清史料研究 I - (7)
9. 明清史料研究 I - (8)
10. 明清史料研究 I - (9)
11. 明清史料研究 I - (10)
12. 明清史料研究 I - (11)
13. 明清史料研究 I - (12)
14. 明清史料研究 I - (13)
15. 明清史料研究 I - (14)

8. 成績評価方法：

発表内容（平常点）

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB63502, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清史料研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目) : Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Students will improve the reading skills of historical materials in Ming Qing Period and understand the research method of Early Modern China which is necessary to write a graduation thesis.

5. 学修の到達目標：内容読解に当たっては同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : In reading the text, students collect related historical materials by other contemporaries' writings and train to deepen understanding. Students perform a presentation in every class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー
2. 明清史料研究Ⅱー(1)
3. 明清史料研究Ⅱー(2)
4. 明清史料研究Ⅱー(3)
5. 明清史料研究Ⅱー(4)
6. 明清史料研究Ⅱー(5)
7. 明清史料研究Ⅱー(6)
8. 明清史料研究Ⅱー(7)
9. 明清史料研究Ⅱー(8)
10. 明清史料研究Ⅱー(9)
11. 明清史料研究Ⅱー(10)
12. 明清史料研究Ⅱー(11)
13. 明清史料研究Ⅱー(12)
14. 明清史料研究Ⅱー(13)
15. 明清史料研究Ⅱー(14)

8. 成績評価方法：

発表内容(平常点)

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。